

第3次熊本市 生涯スポーツ マスタープラン

概要版

2025.4-2032.3



01 策定にあたって

1 策定の背景・趣旨

本計画は、国の第3期スポーツ基本計画及び県の第3期スポーツ推進計画を反映し、**本市スポーツ行政・スポーツまちづくりの指針として策定する**ものです。このほか、人口減少社会の到来や市民ニーズの多様化など社会状況等の変化によって、**スポーツを取り巻く環境の大きな変化への対応のために現行の計画を見直す**ものです。また、**“スポーツの振興”のみならず“スポーツによるまちの振興”**、すなわち「スポーツの力を活用した上質な生活都市の実現」にも寄与する計画とします。

2 計画の位置付け

本計画は、**スポーツ基本法に基づき、国のスポーツ基本計画を参酌**し、本市の最上位計画である熊本市第8次総合計画との整合を図り、本市スポーツ行政・スポーツまちづくりの指針として策定するものです。また、本市の各分野における関連計画との連携を図ります。

3 計画の期間

熊本市第8次総合計画と終期を合わせるため、令和7年度(2025年度)から令和13年度(2031年度)の7年間の計画とし、中間年度となる令和9年度(2027年度)に見直しを行います。

4 計画が対象とするスポーツの範囲

本計画では、野球やバスケットボール、サッカーなどの競技種目やレクリエーション活動のほか、健康のための散歩や体操などの軽い運動、さらに徒歩や自転車による通勤や買い物などの日常生活における活動など、**意識的・継続的に行う様々な身体活動のことを「スポーツ」として幅広く捉え**、これまでスポーツに縁のなかった方にも気軽に親しんでいただくことを目指します。

5 スポーツの力

スポーツには多岐にわたる価値があります。**スポーツの持つ力は個々の健康や幸福にとどまらず、社会全体の課題解決や地域の発展にも貢献する、非常に重要な要素**です。本市は、これらの「スポーツの力」を市民一人ひとりが享受できるようスポーツ振興に取り組みます。

02 スポーツを取り巻く現状

1 社会情勢の変化

(1) 人生100年時代の到来

人生100年時代の基盤は、一人一人の心身の健康であり、スポーツは市民の健康づくりや仲間づくりに寄与する活動として期待できます。

(3) 多様性を認め合うまちの実現

スポーツに親しむ場においても、性別、年齢、障がいの有無、国籍等にかかわらず、多様性を尊重し合うことが重要です。

(2) 持続可能な社会への移行

スポーツは持続可能な社会を支える重要な要素であり、一人ひとりがその意義を理解し、積極的に関わっていくことが求められています。

(4) デジタル技術革新の進展

個人・法人を問わないトレーニング動画のオンライン配信や、VR・ARを活用など、多様な楽しみ方の創出が期待できます。

2 国や県の動向からみる社会潮流

国の潮流

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の基本コンセプトの一つとなった多様性と調和や、共生社会への関心が一層広まる中、令和3年度(2021年度)に策定された第3期スポーツ基本計画では、新たな3つの視点や12の施策を通じて、**全ての人々が自発的にスポーツに取り組むことで自己実現を図り、スポーツの力で、前向きで活力ある社会と、絆の強い社会**を目指すこととしています。

県の潮流

県は第3期計画を策定し、スポーツを「する」「みる」「ささえる」といった多様な関わりの中でスポーツ参画人口拡大を図るとともに、すべての県民がライフステージに応じて参加できるスポーツの機会を創出し、健康で活力ある共生社会を実現することで、**「スポーツによる人が輝く豊かなくまもとづくり」**を目指しています。

01

スポーツ機会の充実

地域スポーツ活動の支援

スポーツにおける地域コミュニティの強化

- 総合型地域スポーツクラブの立ち上げ支援やクラブ間の情報交換、交流機会の創出を行い、活動内容の充実に取り組みました。
- 校区体育・スポーツ協会では、運動会や各種スポーツ大会の開催など、地域スポーツが活発に行われており、地域コミュニティをつなぐ大きな役割を果たしています。

総合型地域スポーツクラブ

項目	H24	R5	増減
クラブ数	19㉿㉿	23㉿㉿	+4㉿㉿
クラブ員数	6,109人	7,528人	+1,419人

02

スポーツ競技力の向上

スポーツ関係団体との連携

スポーツ関係団体との連携

- スポーツ技術の向上を図るため、競技団体と連携して大会の開催や指導者養成に取り組みました。

スポーツ顕彰制度の活用

- スポーツ活動において著しい功績を残した競技者等に対してスポーツ奨励賞を贈呈しました。

項目	件数	内訳
R5年度スポーツ奨励賞	16件	個人14件 団体2件

03

スポーツコンベンションの推進

国際・全国レベルのスポーツ大会等の開催誘致

各種スポーツ大会等の誘致、受入

- 県や競技団体等と連携し、全国的・国際的なスポーツ大会等を誘致しました。

開催時期	大会名
2019.10月	ラグビーワールドカップ 2019™熊本開催
2019.11-12月	2019女子ハンドボール世界選手権大会
2023.8月	世界マスターズ水泳選手権 2023九州大会 (熊本市：水球)
2023.11月 2024.11月	熊本マスターズジャパン (バドミントン)

熊本城マラソンの開催

- 県内外から多くのランナーが参加する熊本城マラソンを開催しました。

04

スポーツ情報の提供

スポーツ情報システムの充実

熊本県・市町村公共施設案内予約システムの運用

- 県と共同運用している予約システムについて、より利便性の高い単独システムに再構築しました。

SNSを活用したスポーツ情報の提供

- LINEやX(旧Twitter)、InstagramなどSNSを活用し、スポーツに関する情報をタイムリーに発信しました。

05

スポーツ施設の整備・機能充実

スポーツ施設の機能充実・利便性の向上

スポーツ施設の整備改善

- 「熊本市スポーツ施設ストック適正化計画」を策定し、施設の適切な維持管理を行うことで、市民が安心してスポーツを楽しむことができる環境を確保しました。
- 全ての屋内施設LED化を完了しました。
- また、トイレ洋式化など、スポーツ施設の機能充実に継続して進めています。

項目	施設数
LED化完了屋内施設数	33施設
トイレ洋式化施設数	29施設

- こどもや若者のスポーツ参加人口の減少
- 新しい学校部活動の在り方検討
- 地域等での指導者不足
- 校区体育・スポーツ協会役員のなり手不足
- 総合型地域スポーツクラブの充実

- 少子化によるチームスポーツを行う機会の減少など、スポーツ環境の変化への対応
- 指導者の育成や確保、資質の向上

- 国際大会のレギュレーションに合わせたインフラ整備
- 大会運営における人材の育成
- 海外からのインバウンド対策

- 新予約システムの周知の徹底
- 施設や試合情報などのスポーツに関する情報の迅速な発信の徹底

- 人口減少に対応した施設数や管理コストの最適化
- 多様な市民ニーズに対応した機能の充実

4 市のスポーツ推進の現状

01

「する」スポーツ

スポーツ実施率の回復

→ 週1回以上30分以上の運動を行う人の割合(以下スポーツ実施率)は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、50%前後で推移していましたが、令和5年度(2023年度)には、その割合が56.7%となり、コロナ禍前の令和元年度(2019年度)を約3.8%上回りました。この増加により、令和5年度(2023年度)には国を上回る水準へと転じました。

スポーツ実施率推移



出典：総合計画に関する市民アンケート調査(熊本市)
スポーツの実施状況等に関する世論調査(スポーツ庁)

スポーツを行う理由・行わない理由

- スポーツを実施する目的・理由としては、「健康維持・増進(80.6%)」が最も高い割合を占めており、次いで、「ストレス解消・気分転換(46.4%)」や「ダイエット(32.6%)」が並ぶことから、心身をより良い状態にしておくための手段としてスポーツが選ばれています。
- スポーツを行わない理由は、「忙しさ(52.6%)」、「金銭的余裕(24.2%)」、「加齢(21.1%)」と、現代社会における構造的理由がスポーツ実施にも少なからず影響している可能性が考えられます。

02

「みる」スポーツ

スポーツ現地観戦率

→ この1年間における直接会場でスポーツ観戦を行った割合について、45.5%が「観戦した」と回答しており、国の25.9%と比較しても極めて高い水準にあります。このことは全県的な特徴とも言え、熊本県のスポーツ観戦行動者率は47都道府県中7位の水準にあります。

スポーツ観戦をする理由

→ スポーツ観戦の理由をみると、「その競技が好き」であることは共通の前提であるものの、応援対象の競技レベルによってモチベーションが異なる部分も見て取れます。プロスポーツでは、特定の覇員のチームや選手がいる他、観戦そのものが「楽しい(≒観応えがある)」という至って根本的な理由が上位となっています。他方、アマチュア・学生スポーツでは、家族や友人等、より応援対象が身近になる傾向がみられます。

スポーツ観戦理由(上段：プロ 下段：アマ)



出典：市民のスポーツ活動に関するアンケート調査2024(熊本市)

03

「ささえる」スポーツ

スポーツボランティア参画率

- この1年間におけるスポーツの指導やイベントへの協力など、スポーツに関するボランティア活動の有無について、12.8%が「行った」と回答しており、国の9.9%と比較してもやや高い水準にあります。
- 実施したボランティアの内訳をみると、「スポーツ活動の付き添い、見守り」や「大会やイベントのお手伝い」、「校区体育・スポーツ協会等のお世話」が上位であり、校区体育・スポーツ協会等の地域でのスポーツ活動機会が多いことが、ボランティア参画率を高めている一因であり本市の特徴として考えられます。

行ったボランティアの種類(上位5項目)



出典：市民のスポーツ活動に関するアンケート調査2024(熊本市)

スポーツボランティア参画意向

- 今後の参画意向も参画率とほぼ一致しており、今後さらに参画率を増やすためには、参画意向において「わからない」を選択している浮動層の参加意欲を高める必要があります。

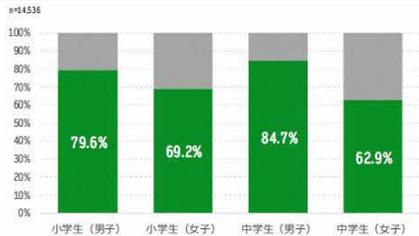
04

こどものスポーツ

こどものスポーツ実施率

- こどものスポーツ実施率(体育の授業以外で週1回以上スポーツを実施した割合)は、小学生・中学生共に女子の割合が低い傾向にあります。

こどものスポーツ実施率



出典：こどものスポーツ活動に関するアンケート調査2024（熊本市）

こどもがスポーツを実施しない主な理由

- 男女共通して「疲れる」ことや「面倒」であることが上位の理由となっており、特に中学生になるとその傾向が強くなります。また、スポーツの巧拙に関する自意識も主要な理由として挙がっており、特に女子でその傾向が強くなっています。

どのようにスポーツを行ったか

- 小学生は「友達と」や「地域や民間のスポーツチームやクラブ、スポーツ教室」が多く、中学生は「学校の部活、クラブ活動」が多くなっています。併せて中学校部活動はこどものスポーツ機会の創出に大変重要であることが調査により明確となりました。

05

障がい者のスポーツ

障がいのある方がスポーツを実施する主な理由

- 障がいのある方からは、「スポーツ活動が体力向上やリハビリにとどまらず、社会的なつながりを感じ、自己実現の機会にもなっている」という声や、「障がいの有無に関わらず、多様な人とスポーツをしたい」という意見が寄せられています。

スポーツ実施を支える人材の必要性

- 障がいのある方が安心してスポーツに取り組むためには、障がいに対する十分な理解を持った指導者やサポートスタッフの存在が不可欠です。技術的な指導ができる人だけでなく、見守りや声掛けのできる人がいることで、安心してスポーツに参加できるという意見もあります。障がいの特性や個々のニーズに合わせて適切に対応できる支え手の確保・育成も同時に求められています。

障がいのある方も安心して参加できるスポーツの場の充実と情報の提供が課題

- 保護者からは、障がいのあるこどもに適したスポーツクラブや活動の場を見つけるのに苦労しているという声があり、十分な情報が提供されていないことが障がいのある方のスポーツ機会獲得の阻害要因になっていると考えられます。

06

地域スポーツ

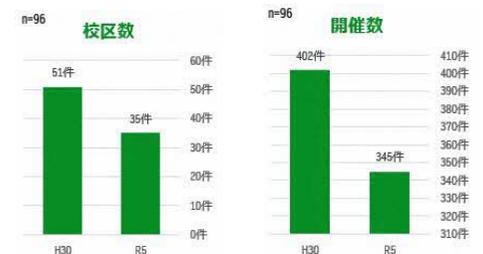
本市の地域スポーツ推進の特徴

- 本市では、市内すべての小学校区(92校)に校区体育・スポーツ協会が組織されており、校区の特性を活かしてスポーツ活動が活発に行われています。老若男女問わず地域住民が参加できる運動会やスポーツ大会が開催されることで、スポーツを通じた交流やまちづくりにつながっています。

担い手不足や各種大会の開催数減少が課題

- 高齢化や人口減少に伴う少子化により、参加者の減少や担い手不足が生じています。特に若年層の参加人口が著しく減少していると感じる声が多く、担い手の不足については76.1%の団体が実感しています。
- コロナ禍における活動制限により、地域の運動会や各種スポーツ大会の開催数が活動制限前(平成30年度(2018年度))と比較して減少しています。

校区スポーツ大会



出典：スポーツ活動に関するアンケート調査2024（熊本市）

1

将来像

スポーツの力を活用して上質な生活都市の実現を目指していくうえで、前述にあるように市民の主体性によって地域やコミュニティのつながりやで困難を乗り越えてきた本市の特性を活かし、以下のコンセプトに沿って各種施策を展開します。

熊本市第8次総合計画 めざすまちの姿（≒都市ブランド）

上質な
生活都市

- 支え合いながら心豊かで**幸せ**な暮らしが営まれる
- 災害に強くだれもが安心して暮らせる
- 自分たちが暮らすまちに**誇り**や**夢**、**希望**を抱ける
- **多様**な生活を楽しんでいる

住み続けたい
住んでみたい
訪れたい

▲ スポーツによってさらに上質な生活都市の実現に寄与

第3次熊本市生涯スポーツマスタープラン 将来像を考えるうえでのキーワード

- # **自発性**（能動性・積極性・主体性）
- # **つながり・絆**（人・まち・未来）
- # **基盤**（元気・幸せ・誇り・夢・希望）



国の定義

- スポーツは、「する」「みる」「ささえる」という様々な形での参画を通して、人々が感じる「楽しさ」や「喜び」に根源を持つ身体活動
- その身体活動自体に、心身の健全な発達、健康・体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心などの精神の涵養等あらゆる「**自発的**」な意思に基づいて行われるもの

参酌

2 基本方針

めざす姿の実現に向けて、以下の基本方針に基づいて、各種施策を展開します。3つの基本方針の中でも、とりわけ本市の“つながりの強さ”等の特徴を鑑み、基本方針1「スポーツを通じて市民が つながる」を最も本市にとって重要な方針として位置づけます。

将来像

ライフステージに応じてだれもがスポーツとつながり、健康的でいきいきと生活できる熊本市

年齢や性別、障がいの有無などに関わらずだれもがスポーツを通じて、心身の健康増進や地域コミュニティとのつながりを強めることで、健康的でいきいきと生活できる「上質な生活都市」の実現を目指します。

基本方針

1 スポーツを通じて市民が つながる

重点

基本方針

2 スポーツの機会や支える人材をつくりはぐくむ

基本方針

3 スポーツに親しめる環境をつくる

3 成果指標・目標値

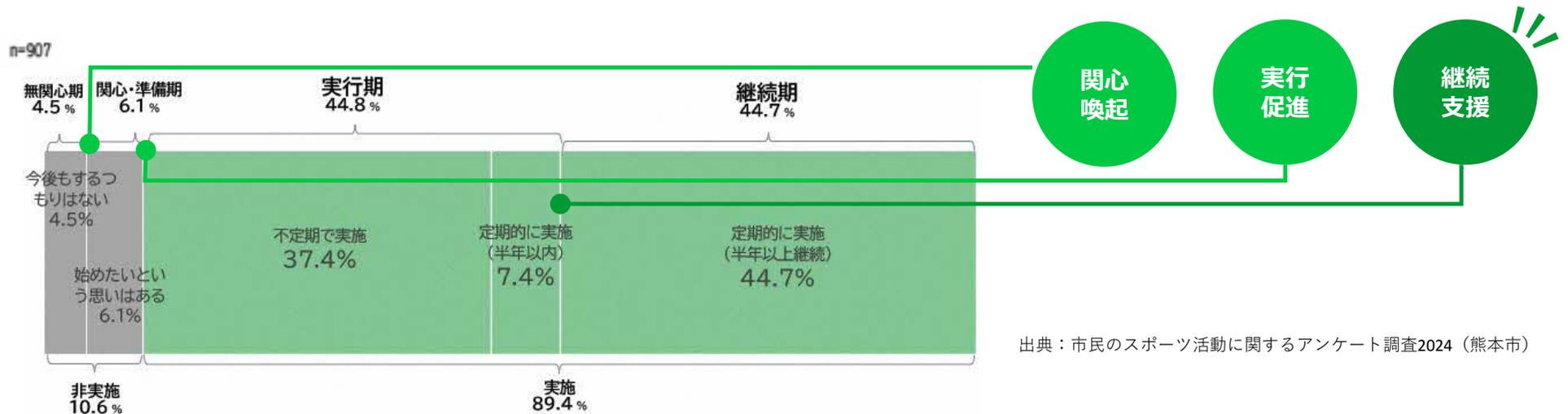
成果指標	現状値	目標値 (R13)
スポーツ実施率 (週に1回30分以上実施した割合) ※総合計画に関する市民アンケート調査	56.7%	60%
スポーツ観戦率 (直接現地にて観戦した割合) ※市民のスポーツ活動に関するアンケート調査2024	45.3%	50%
ボランティア参加率 (スポーツボランティア活動を行った割合) ※市民のスポーツ活動に関するアンケート調査2024	12.8%	15%

4 計画の全体像

3つの基本方針に基づくスポーツ施策を、「する」「みる」「ささえる」の観点から整理するとともに、スポーツに対する関心や取組の度合いについて本市の現状に応じて効果的に施策を展開します。

基本施策	区分			ステージ		
	する	みる	ささえる	関心喚起	実行促進	継続支援
1-1 スポーツにより地域がつながる	●		●	●		
1-2 スポーツにより健康とつながる	●	●		●	●	
1-3 スポーツにより多様な立場の市民がつながる	●	●	●	●		
1-4 スポーツにより全国・世界とつながる		●	●	●		
2-1 だれもがスポーツに親しめる機会をつくる	●		●		●	●
2-2 スポーツ活動を支える人材をそだてる			●		●	●
2-3 デジタル技術活用によりスポーツ界をそだてる	●	●	●	●	●	
3-1 だれもがスポーツに親しめる場をつくる	●	●		●	●	●
3-2 だれもがトップレベルを目指せる環境をつくる	●	●			●	●

本市における市民のスポーツに対する関心や取組の度合いを見ると、実施層が90%を占めており、その内訳として、実行期と継続期がほぼ半数ずつです。したがって、今後本市においてスポーツ実施率の向上を目指すには、不定期実行層の習慣化を促し、定期的にスポーツを始めて間もない層の継続的な実施を支える施策が有用であると考え、特に注力します。



1 体系図

将来像	基本方針	基本施策	主な取組	
ライフステージに応じてだれもがスポーツとつながり、健康的でいきいきと生活できる熊本市	1 重点 スポーツを通じて市民が つながる	1-1 スポーツにより地域がつながる	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合型地域スポーツクラブへの育成・支援 ● 地域スポーツ活動の機会創出 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域スポーツ活動の担い手支援 ● プロ・トップスポーツチームとの連携促進（拡充）
		1-2 スポーツにより健康とつながる	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツによる心身の健康増進 ● 健康づくりプログラムの実施 	
		1-3 スポーツにより多様な立場の市民がつながる	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域スポーツ活動による交流の促進 ● だれもが参加できるスポーツの機会創出 	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツを通じた障がい者理解の促進
		1-4 スポーツにより全国・世界とつながる	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種国際スポーツ大会の開催 ● スポーツコンベンションの振興 	<ul style="list-style-type: none"> ● 友好姉妹都市等とのスポーツ交流（新）
	2 スポーツの機会や支える人材をつくりはぐくむ	2-1 だれもがスポーツに親しめる機会をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ● こどものスポーツ機会の確保と体力向上 ● スポーツ大会観戦や応援活動の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 熊本市スポーツリーダーバンクの活用
		2-2 スポーツ活動を支える人材をそだてる	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域スポーツ指導者の育成・支援 ● スポーツの支え手の育成・支援 	
		2-3 デジタル技術活用によりスポーツ界をそだてる	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報発信の強化 ● システムやアプリの活用（拡充） 	
	3 スポーツに親しめる環境をつくる	3-1 だれもがスポーツに親しめる場をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ施設の機能充実・利便性の向上 ● 道路やオープンスペース等の活用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校体育施設の活用促進
		3-2 だれもがトップレベルを目指せる環境をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ分野において活躍・貢献された方へ支援や表彰 ● プロスポーツチームと連携した環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ● プロスポーツチームによるイベントや教室等の開催（拡充）

基本施策 1-1 スポーツにより地域がつながる

総合型地域スポーツクラブへの育成・支援

総合型地域スポーツクラブは、小学校の部活動が社会体育に移行する際に、スポーツ機会を確保する受け皿として大きな役割を果たしてきました。熊本市立中学校においては新しい学校部活動の在り方が検討されており、総合型地域スポーツクラブとの連携を図っていく必要があります。現在、23クラブが活動しており、クラブ間での情報交換や交流の機会を創出するなど、育成・支援を行い、地域でのスポーツ活動の機会を増やし、地域住民のスポーツ参加を促進していきます。

主な事業

- 総合型地域スポーツクラブの育成・支援
- 総合型地域スポーツクラブ全体交流会の実施

地域スポーツ活動の担い手支援

本市では、校区体育・スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ、競技団体、スポーツ少年団などが地域で活動しています。近年、少子高齢化や人口減少、地域コミュニティの希薄化など、地域スポーツを取り巻く環境が大きく変わってきており、スポーツ活動に不可欠な担い手が不足している団体も見受けられます。スポーツの専門的知識を持つ職員が多く所属する「熊本市文化スポーツ財団」との連携促進や「スポーツリーダーバンク」の充実など、地域スポーツ活動の担い手支援に取り組みます。

主な事業

- 総合型地域スポーツクラブの育成・支援（再掲）
- 各種スポーツ団体への支援
- 外郭団体（熊本市文化スポーツ財団）との連携促進

地域スポーツ活動の機会創出

地域でのスポーツ活動を積極的に支援することで、「交流」や「つながり」をキーワードに、スポーツを通じたまちづくりを推進していきます。「市民スポーツフェスタ」や「区民スポーツフェスタ」などを開催し、身近な地域でだれもがスポーツに親しめる環境を整備するほか、地域のスポーツ団体が実施する運動会や各種スポーツ大会などへの支援を拡充し、スポーツを通じた市民の交流を深め、地域の一体感の醸成や地域コミュニティの活性化を図ります。

主な事業

- 市民スポーツフェスタの開催
- 放課後子どもスポーツ教室の開催
- 校区体育・スポーツ協会への支援

プロ・トップスポーツチームとの連携促進

本市にはロアツソ熊本や熊本ヴォルターズといったプロスポーツチームがあり、これらのチームとの連携・協働を通じて、市民がトップレベルのスポーツに触れる機会を増やします。トップスポーツチームによる公開練習や選手との交流イベントを開催し、市民が身近にトップレベルのスポーツを体験できる機会を提供するとともに、本市ゆかりのアスリートやプロ・トップスポーツチームの活躍を積極的に発信し、市民が愛着を持てる取り組みを進めることで、応援機運の醸成や観戦者の拡大を目指します。

主な事業

- プロ・トップスポーツチームとの連携による誘客促進
- 本市ゆかりのアスリートやプロ・トップスポーツチームの活動や試合情報等の発信

基本施策1-2 スポーツにより健康とつながる

スポーツによる心身の健康増進

スポーツには、生活習慣病の予防や体力向上を図るなど、市民の健康寿命の延伸に効果があります。また、スポーツを通じて、ストレスの軽減や自尊心の向上、社会的なつながりを感じられるといった心の健康増進にもつながります。

本市では、市民だれもが参加できるスポーツイベントを開催し、市民が年齢や体力に応じた運動習慣を身につけられる機会を提供します。また、体力テストの開催時には、健康相談コーナーを設置するなど、活力向上やスポーツを習慣的に実施できるような、健康で豊かな市民生活と心の通い合うまちづくりの実現を目指します。

主な事業

- 市民スポーツフェスタの開催（再掲）
- 総合型地域スポーツクラブの育成・支援（再掲）

健康づくりプログラムの実施

市民が心身ともに健やかな生活を送ることを目指し、スポーツを通じて、ストレスの軽減や自尊心の向上、社会的なつながりを感じられるといった心身の健康増進に取り組みます。

本市では、プロスポーツチーム等と連携し、高齢者の健康増進プログラムを開発し、できるだけ早い時期からの健康づくりと運動習慣の定着を図る事業や、ウォーキングや各種検診の受診などの日々の健康づくり活動をポイントとしてためることができ、一定の活動成果によって抽選で商品が当たる等の仕組みにより、気軽に楽しみながら、生活習慣の改善につなげる健康ポイント事業など、市民が楽しみながら心の健康を育む機会を提供します。

主な事業

- 心の健康増進のためのスポーツイベントや交流活動などのプログラム実施
- スポーツを通じた仲間づくりやコミュニティ活動への参加を促進するプロモーション・情報発信

基本施策1-3 スポーツにより多様な立場の市民がつながる

地域スポーツ活動による交流の促進

障がい者スポーツやニュースポーツ等のスポーツ・レクリエーションは、障がいのある人に限らず、こどもから高齢者、あるいは運動が得意でない人まで、だれもが楽しむことができるユニバーサルなスポーツとして、スポーツ実施の裾野を広げられる可能性を持っています。更に、こうしたスポーツを多様な人が一緒に楽しむことで、自然な形で障がいのある人や体力がない人への理解を深めていくことができるなどの効果も期待できます。

総合型地域スポーツクラブは、スポーツを通じて地域コミュニティの核としての役割があり、その育成・支援を通して、共生社会の実現へとつなげていきます。

主な事業

- 総合型地域スポーツクラブの育成・支援（再掲）
- スポーツ用具貸出

だれもが参加できるスポーツの機会創出

市民だれもが参加可能であり、こどもから高齢者まで多世代が楽しく参加できるイベントを開催することで、多様な立場の市民にスポーツを通して交流ができます。また、このような機会を提供することによって、健康で豊かな市民生活と心のかよいあうまちづくりの実現をめざします。

スポーツを通じて市民同士のネットワークが広がり、地域社会の活性化につながるのと同時に、スポーツが持つ社会的な価値を高めていきます。

主な事業

- 市民スポーツフェスタの開催（再掲）

スポーツを通じた障がい者理解の促進

本市では、障がい者が競技等を通じてスポーツの楽しさを体験し、競技力の向上を図るとともに、障がいについて市民の理解を一層深め、障がいのある人とない人が共にスポーツを楽しめる場を提供します。そして、障がい者等の社会参加の促進を図り、スポーツを通じて触れ合うことで、相互理解を深めることを目指します。

パラリンピック競技やボッチャ、車いすバスケットボールなど、多様な障がい者スポーツの体験会を市内各所で開催するなど、共にスポーツを楽しめる場を提供します。また、障がい者スポーツ団体と学校や地域団体との連携を強化し、地域のスポーツ団体が障がい者も受け入れられる環境づくりを進めます。

主な事業

- くまもと障がい者スポーツ大会の開催
- 全国障害者スポーツ大会への熊本市選手団の派遣
- 市民スポーツフェスタの開催（再掲）
- 地域団体主催のスポーツ大会での交流促進

基本施策 1-4 スポーツにより全国・世界とつながる

各種国際スポーツ大会の開催

市民にとって身近な会場で選手たちの躍動感、熱量を実際に感じることでスポーツの発展につながり、地域のスポーツ団体や企業と連携し、地域一体となって受け入れる体制を整備することでスポーツによる賑わいづくりを創出します。

また、国内外からスポーツイベントや大会の開催などを契機に、市内での滞在を通じて観光や交流の促進、経済効果の創出を図ります。

大規模スポーツ大会の開催を通じて得られたノウハウなど貴重な経験を生かし、更なるスポーツによる賑わいづくりを創出します。

主な事業

- 全国規模のスポーツ大会やイベントの誘致

スポーツコンベンションの振興

スポーツコンベンションとは、国内外からスポーツイベントや大会、ナショナルチームの強化合宿等を誘致し、市内での滞在を通じて観光や交流の促進、経済効果の創出を図る取り組みです。

本市では、豊かな自然環境やスポーツ施設を活用し、多様な競技の合宿地としての魅力を発信し、誘致していきます。

また、世界、全国規模のプロスポーツチームのキャンプ地誘致を強化し、地域のスポーツ団体や企業と連携し、地域一体となって受け入れる体制を構築します。

主な事業

- 世界・日本代表チーム等の強化合宿を誘致

友好姉妹都市等とのスポーツ交流

スポーツを通じた国際交流事業として、「友好都市(ドイツのハイデルベルク市)」とのスポーツ交流プログラムを実施します。言語やその国の文化の違いについての国際理解を深め、言語が通じなくてもスポーツによるコミュニケーションがとれることを学び、国際視野の広い青少年の育成を図ります。

また、韓国の蔚山広域市や台湾の高雄市とも、様々な分野で交流を深めています。その一環として、毎年相互のマラソン大会のPRを行うとともに、ランナーの派遣などの交流を行っています。

主な事業

- ハイデルベルク市とのスポーツ交流事業
- 蔚山広域市とのマラソン交流
- 高雄市とのマラソン交流

基本施策 2 - 1 だれもがスポーツに親しめる機会をつくる

こどものスポーツ機会の確保と体力向上

親子や家族間また地域住民間での結びつきを強化するため、主に熊本市スポーツ推進委員が企画・運営を行う親子スポーツ大会を開催し、スポーツを通して親子をはじめとする家族のふれあい及び地域住民間の交流推進を目指します。モルックやビーチボールバレー等を中心に、小さい子どもからお年寄りまで楽しめるような種目を通して、親子での結びつきを高めたり世代間交流を図ります。また、放課後子どもスポーツ教室のほか、中学校部活においては、拠点校部活動の推進やチャレンジクラブ(仮称)の創設など、運動機会の確保や環境の整備に取り組みます。

主な事業

- 親子スポーツ大会の実施
- 放課後子どもスポーツ教室の開催(再掲)
- 拠点校部活動の推進やチャレンジクラブ(仮称)の創設

スポーツ大会観戦や応援活動の促進

熊本城マラソンでは、沿道の途切れない応援が日本一と称されるなど、毎年20万人を超える多くの方々に沿道から声援を送っていただいています。このように多くの方が参加するスポーツ大会の応援機会の創出を行うことで、スポーツをより親しめるきっかけになります。

また、くまもと障がい者スポーツ大会の開催により、障がい者のスポーツ振興に加え、大会の観戦に来た方が増えることで、障がいに対する理解を一層深め、障がい者等の社会参加を促進します。

主な事業

- 熊本城マラソンの開催
- くまもと障がい者スポーツ大会の開催(再掲)
- MICE誘致戦略に基づく誘致活動等

熊本市スポーツリーダーバンクの活用

地域の学校や企業、自治会などと連携し、スポーツリーダーの派遣を促進します。地域イベントや地域スポーツ団体でスポーツリーダーを活用することで、地域全体の健康増進に寄与します。熊本地震以降、スポーツリーダーの減少が課題となっていることから、市民にスポーツリーダーバンクの存在や利用方法等をSNSや市ホームページ、スポーツイベントなどで積極的に情報発信を行い、登録者数の増加を図ります。引き続き、定期的な研修を実施し、育成プログラムやコンプライアンス研修を充実させることで指導者の質を向上させます。また、中学校部活動の持続可能な運営体制の構築を目的に設置が予定されている人材バンクとの連携など、スポーツリーダーバンクの今後の在り方についても検討を行います。

主な事業

- 熊本市スポーツリーダーバンク
- 熊本市立中学校部活動における人材バンク

基本施策 2 - 2 スポーツ活動を支える人材をそだてる

地域スポーツ指導者の育成・支援

地域スポーツにおける指導者(スポーツリーダー、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ指導者など)の指導力の向上のために、スポーツリーダー研修会兼スポーツ指導者研修会を実施しています。また、地域スポーツ振興のために、連絡調整や地域住民に対するスポーツの実技指導、その他スポーツに関する指導・助言を行うために各校区に配置されている熊本市スポーツ推進委員の資質向上を目指して、年に一回、スポーツ推進委員全体研修会を開催しています。

主な事業

- スポーツリーダーフォロー研修会兼スポーツ指導者研修会
- 熊本市スポーツ推進委員全体研修会の開催

スポーツの支え手の育成・支援

総合型地域スポーツクラブでは、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会を設置し、それぞれの地域での課題等について検討・協議を行うほか、全体交流会を実施しています。これらの会議の開催や支援を通じて、クラブ間の情報交換や相互連携を促進し、地域スポーツの推進を図ります。また、熊本市スポーツ推進委員協議会では、研修プログラムの充実を図り、さらに各種研修会への積極的な参加を啓発することで、スポーツ推進委員の更なる資質向上に取り組みます。

主な事業

- 総合型地域スポーツクラブの育成・支援(再掲)
- 熊本市スポーツ推進委員の資質向上

基本施策 2 - 3 デジタル技術活用によりスポーツ界をそだてる

情報発信の強化

街中の大型ビジョンやショッピングモールでのPR動画放映などを通じて、本市拠点のプロスポーツチームの情報を効果的に発信するとともに、既存の市広報誌やホームページでは、各種スポーツ大会や教室の開催状況などの情報を提供し、高齢者や障がい者、外国人を含むだれもが支障なく利用できるよう、情報発信の向上を目指します。さらに、スポーツ大会やスポーツ教室の開催情報、プロスポーツチームと連携したイベント情報などをSNSを活用して発信し、市民が必要とする情報を集約し、効率的に提供できるよう努めます。

主な事業

- 効果的な情報発信
- スポーツ団体等と連携した情報発信

システムやアプリの活用

令和6年(2024年)12月から運用開始したスポーツ施設の新しい予約システムについて、利用者にとって効率的な施設予約体制の強化に努めます。また、ボランティア活動を行うことでポイントが貯まる「くまもとアプリ」を活用し、積極的にボランティア募集を行います。さらに、「熊本健康アプリ」では、スタンプラリー機能などを活用し、気軽に楽しみながら生活習慣の改善につなげ、健康増進や健康寿命の延伸を図ります。

主な事業

- 新予約システムの利用促進
- 「くまもとアプリ」「熊本健康アプリ」利用促進

基本施策3-1 だれもがスポーツに親しめる場をつくる

スポーツ施設の機能充実・利便性の向上

スポーツ施設の長寿命化及び安全性を確保するため、計画的な改修・更新を行います。また、災害時の避難所として多くの市民が安心して過ごせるよう、高い安全性と耐震性能を備えた施設改修を実施するとともに、バリアフリー化や多言語対応を推進します。また、熱中症対策として空調設備の導入やスポーツ用具の貸し出しなど、市民ニーズに応じた利用環境の向上に取り組みます。県や近隣自治体において施設再編整備が進むことも想定されるため、県や近隣自治体と連携した取り組みについても検討します。さらに、大規模スポーツ大会の誘致・開催に向け、スポーツ施設の機能向上や民間活力の導入を視野に入れた施設整備に関する調査・検討を進めます。

主な事業

- 公設運動施設の整備
- スポーツ用具の貸し出し（再掲）

道路やオープンスペース等の活用促進

自転車の走行空間や「白川ちゃりんぼみち」の整備を進め、歩行者や自転車利用者の安全性を向上させるとともに、日常的にウォーキングやジョギング、サイクリングができる環境を整備します。

また、サイクリングを始めるきっかけづくりとして、江津湖周辺や西区内の観光スポットや史跡を巡るサイクリングルートを設定し、サイクリングマップを作成して広く周知します。これにより、身近な場所からスポーツに触れられるよう、オープンスペースの活用を推進します。

主な事業

- 自転車の走行空間の整備
- 白川ちゃりんぼみちの整備
- サイクリングマップの作成

学校体育施設の活用促進

地域住民はもちろん、子どもや若者も利用できる学校体育施設について、気軽に利用できるよう、本市スポーツ施設の予約システムを令和6年(2024年)12月から新予約システムとして運用を開始しました。今後は新予約システム利用者を増やすため、システムに関する情報の周知徹底に努めます。また、各学校体育施設の利用可能な種目の説明や、施設の工事等で使用できない際の情報をリアルタイムで発信するなど、新予約システムの利便性向上に努め、市民のスポーツ活動の機会を増やします。

さらに、施設を管理する管理人との情報共有を強化し、災害発生時の施設開設状況の周知などを迅速に対応できる仕組みを構築します。

主な事業

- 学校体育施設の予約・利用システムの整備
- 学校体育施設の利用についての情報発信強化

基本施策3-2 だれもがトップレベルを目指せる環境をつくる

スポーツ分野において活躍・貢献された方へ支援や表彰

スポーツ分野において、国際大会や全国大会に出場する選手や団体を激励し、活躍を祈念するために大会出場激励金の交付を行い、将来にわたり活躍が期待される選手への支援を行います。

また、本市のイメージアップに貢献するような顕著な成績を収めた選手には、スポーツ奨励賞を授与し、顕彰します。

このような支援や表彰を継続して行うため、スポーツ振興基金であるふるさと納税の寄付金についての情報を広く周知し、支援や表彰の取り組みをさらに拡充することを目指します。

主な事業

- スポーツ振興基金を活用した顕彰等

プロスポーツチームと連携した環境づくり

本市に拠点を置くプロスポーツチームであるロアッソ熊本、熊本ヴォルターズ、火の国サラマンダーズ、フォレストリーヴズ熊本、熊本ビューストピンディーズ等のプロスポーツチームと連携した広報展開をすることで、競技人口の増加やスポーツの振興を促進します。

また、プロスポーツチームへの支援を強化することで、試合観戦意欲の向上はもとより、市内外の交流人口の増加による地域経済の活性化やシティプロモーションの推進に取り組みます。

主な事業

- プロスポーツチームと連携した広報展開の推進

プロスポーツチームによるイベントや教室等の開催

本市では多くのプロスポーツチームが活躍しており、スポーツを通じて市民に夢や希望、そして元気を与えています。プロスポーツチームと連携した取組として、熊本市内の小中高校生を対象に、プロスポーツチームの選手やコーチによる教室を開催し、スポーツ交流を通じてスポーツの振興や競技普及に寄与することを目的としています。これにより、スポーツを「する」「みる」「ささえる」といった多様な形で市民がスポーツに参加するきっかけを作り、競技力の向上や競技人口の増加などスポーツの振興を図ります。

主な事業

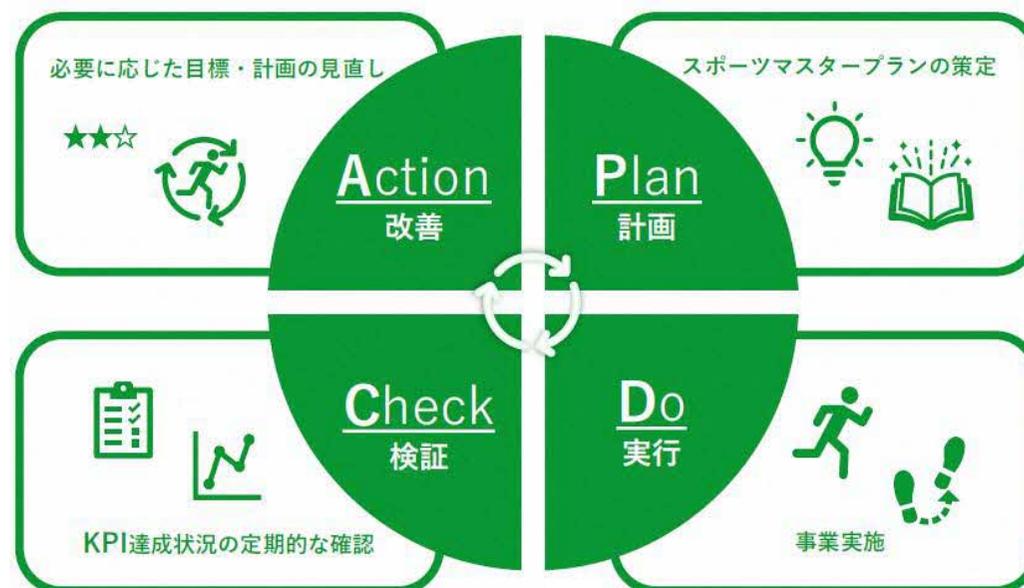
- プロスポーツチームと連携したイベントやスポーツ教室等の開催

1 推進体制

本計画に掲げる取組は、市が牽引役となり、熊本市スポーツ推進委員協議会や校区体育・スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブなどのスポーツ関係団体、プロ・トップスポーツチーム、民間事業者、大学等、様々な主体との連携・協働によって推進します。

2 進行管理

本計画の推進にあたっては、事業単位での施策進捗等“アウトプット”に関する数値や、成果指標の達成度合い等“アウトカム”に関する数値を定期的に計測し、年に1回以上、スポーツ推進審議会において計画の評価・検討を行いながら、PDCAサイクルを繰り返すことにより、取り組みを継続的に改善していきます。また、スポーツを巡る最新の動向を把握するとともに、関係団体や庁内関係部局と調整をしながら取り組みます。





第3次熊本市生涯スポーツマスタープラン 概要版

令和7年(2025年)3月発行

熊本市

経済観光局 スポーツ・イベント部 スポーツ振興課

〒860-8601 熊本県熊本市中央区手取本町1番1号

TEL : 096-328-2724

FAX : 096-323-9262

E-mail : sportsshinkou@city.kumamoto.lg.jp